

令和4年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 記録

令和4年11月24日(木) 10:00~12:00
県庁9階 第一会議室

＜審議会委員＞

田端 健人 委員長, 熊谷 龍一 副委員長, 坪田 益美 委員, 高橋 真木子 委員, 浅野 直美 委員,
伊藤 宣子 委員, 高橋 千春 委員, 本木 一昭 委員, 荒井 雅行 委員, 志小田 美弘 委員,
佐々木 克敬 委員, 勅使瓦 理恵 委員, 徳能 順子 委員
(欠席: 川嶋 輝彦 委員, 高橋 和之委員, 菅井 理恵 委員)

＜県教育委員会＞

伊東 昭代 教育長, 遠藤 浩 副教育長, 高橋拓弥 教育企画室長, 佐々木 利佳子 義務教育課長,
遠藤 秀樹 高校教育課長
(欠席: 嘉藤 俊雄 副教育長)

事務局	(資料の確認) (公開の確認) (開会) (委員の出席状況)
伊東教育長	(教育長あいさつ)
事務局	(県教育庁関係出席者紹介)
委員長	本日もよろしく願います。次第に従って進める。 「2 審議」について、資料1を御覧願う。 7月の第1回入選審の際に諮問があった、(1)「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」と、(2)「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」について、第1回に引き続き審議し、答申をまとめる。 特に日程は、近年、最も窮屈なスケジュールであるが、受験生にとってベターな日程の検討が必要である。限られた時間ではあるが、多角的な観点から慎重な御審議をお願いする。 それでは事務局から、答申案の(1)入学者選抜方針について、説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。それでは選抜方針について審議する。質問又は意見願う。 (特になし) では、令和6年度入学者選抜方針は、諮問どおり答申する。 次に(2)入学者選抜日程について、審議する。事務局から、答申案について説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。選抜日程について審議する。質問又は意見願う。 志小田委員発言願う。
志小田委員	第1回審議会を欠席であった。今回、中学校の立場から話をするため、事前の資料に目を通してきたが、当初示されていた、3月15日の合格発表となると、受験の事後指導に、平日がなくなり、不合格者の第二次募集受験の対応で、中学校現場としては、できればもう1日前倒しをして、14日であれば、これまでのような生徒対応ができと思う。 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ対応の日程等があり、鎮魂の日があり、高校の卒業式がありという中で、日程調整は非常に難しいと思いつつ、中学校からすれば、14日にしていただくとありがたいと思う。 現在、事務局から説明された修正案2がよいと思い、説明を聞いた。
委員長	発言感謝する。 第一次募集の合格発表後、うまくいかなかった中学生に対する指導の日程を考慮

	<p>し、諮問案よりも、修正案の2の方がベターとの意見であった。他発言願う。 本木委員発言願う。</p>
本木委員	<p>合格発表の15日か14日かについては、今、志小田委員の発言どおりであるが、心配なのは、追試験の日程が、あまりにも学力検査日に近すぎて、追試験の意味があるのかということである。</p> <p>どちらを取るか非常に難しいところだが、8ページのシミュレーションを見ると、令和7年度以降も、追試験の日程については、日程の間隔を空けることを考えると、この年だけ、中2日にすることは、受験生にとっては非常に不安ではないかと思う。</p> <p>体調不良については、インフルエンザであるとか、あるいは新型コロナウイルスであるとか、予測ができないことなので、不安を持ったまま受験を迎えることは、酷であるとの思いがある。</p> <p>私は、諮問案の方がいいと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。追試験と第二次募集出願のどちらを取るかがポイントと思う。</p> <p>7年に1度の割合なので、令和6年度を乗り切れれば、8ページのシミュレーションにあるとおり、第一次募集の学力検査日から追試験まで、原則5日を空けることができる。日にちがずれていくので、令和6年度の受験生にとっては負担のかかる日程になる。他発言願う。</p> <p>伊藤委員発言願う。</p>
伊藤委員	<p>令和6年度の入試となると、今現在の新型コロナの状況が1年後沈静化していくことを強く願うところであり、私は沈静化していくと予測する。</p> <p>追試験は、新型コロナに関係なく、当日受けられない受験生は、どうなるのか心配である。単純に日程だけを確保するのではなく、個々の状態を考慮した形で、追試験を設定しているか教えて欲しい。</p> <p>それから、令和6年度の受験生は、2年半ぐらいの激動の中学校生活を過ごしてきた子供たちである。受験に失敗してしまったら子供たちを力強く支えて、そして高校生活に招き入れることが大切である。そうすると、この合格発表後の3日間は必要な期間と認識しているので、修正案2を推したいと思う。</p>
高校教育課長	<p>今、本木委員と伊藤委員からご指摘いただいた件ですが、追試験の日程が短くなることによって、体調を崩した中学生の受験機会がしっかり確保できるのかという質問があった。</p> <p>現在新型コロナウイルスに感染あるいは濃厚接触者に特定された受験生に対して追試験を受験する。追試験の受験が難しければ、第二次募集の日を受験する。それが難しければ、書類審査で選抜すると3段階で、受験機会を確保し対応している。</p> <p>これまでは、新型コロナ感染に特定した形で実施をしているが、今いろいろ意見をいただき、日程が厳しい状況を踏まえれば、新型コロナ感染に限らず、インフルエンザ等、体調不良になった受験生にも特例的に適用させることも一つの選択肢と考慮している。</p> <p>それについては、それ以外の方法も含め、今後、いろいろ意見等伺いながら検討したいと思う。現段階で考えられるのは、今話した対応かと考えている。</p>
委員長	<p>説明感謝する。追試験まで、修正案2は2日ほどしか空いていない。だが、第二次募集、それから書類審査という、セーフティネットは用意している。そして、第一次募集の合格発表後のケアを優先するのか、あるいは、休業式と第二次募集を重ねてもよしとするのかあたりを判断することになると思う。他意見願う。</p> <p>どれを選択しても、受験生にも負担を強いる日程となるので、委員全員の意見を伺いたい。PTAの立場から高橋委員発言願う。</p>
高橋（真）委員	<p>保護者の立場としては、私立入試もあるので、特に2月から3月は、体調管理に身を削るような思いで、受験日当日を迎えている。</p> <p>この議論から外れてしまうが、そもそも入試は3月でなければいけないのか。もっと体調管理をしやすい時期に入試はできないのかと素人感覚で思う。</p> <p>修正案2については、追試験までの日にちが5日間か3日間かということに大差はない。仮に、体調不良や罹患した場合でも、2日あれば、対応できることもあるので救済措置があればどちらでもよいと思う。</p>

委員長	発言感謝する。 今年度実施した追試験は何人ぐらい受験したか。
高校教育課長	今年度の追試験は、全日制、定時制合わせて110名出願があった。そのうち100名が新型コロナ関係という結果であった。
委員長	新型コロナ感染に罹患した場合、新型コロナ感染の症状や回復の度合いもあるが、症状があまり重篤化しない傾向にあり、3日で何とか回復するケースも出てくるということか。 昨年度の母集団は全県でどれくらいか。
高校教育課長	令和4年度入試で募集定員が全日制で1万3880人、定時制が960人。受験者が、第一次募集と第二次募集で、重なっている受験生もいるので、最終的な全合格者数は、全日制で1万2138人、定時制が326人という結果である。
委員長	1万3000名弱のうち、110名という割合とのこと。今年度よりも、令和6年度の方が、新型コロナ感染にしても改善されている見込みも含めての意見。もう1つはなぜ3月かという抜本的な問題提起もあった。これについては、令和6年度に変えることは難しいので、1つの意見として、今後検討することとしたい。 意見と説明に感謝する。浅野委員発言願う。
浅野委員	この3月の時期は、自分も通過してきたが、受験生にとって厳しい期間であることは変わりがないと思う。私も修正案2の方が、中学生の保護者の立場として、このタイトなスケジュールの中で一番この利にかなっていると思う。
委員長	発言感謝する。佐々木委員発言願う。
佐々木委員	今年度や令和6年に限って言えば、修正案2でやむを得ないと思う。仙台市内の大規模校だと、この日程では採点業務や入試事務処理に関しては厳しいというのが本音である。 逆に、第一次募集合格発表から第二次募集の出願までは、平日は3日間であるがその他に土日等もあり、5、6日間残念だった受験生のために期間がある。本当にこれが必要かどうか、来年度以降検討して欲しい。
委員長	発言感謝する。勅使瓦委員発言願う。
勅使瓦委員	私も結論からすると修正案2がいいと思う。佐々木委員からの意見にあったように、採点業務等を考えると、合格発表までの日にちは確保した方が、高校としては、慎重にその業務に携われる。しかし、令和6年度に関しては、説明や意見を踏まえて、修正案2がいいと思う。
委員長	発言感謝する。徳能委員発言願う。
徳能委員	私も修正案2がよいと思う。高校からすると、修業式の後も、学年度末のいろいろな業務や、その他、新学期に向けての様々なスケジュールがスタートするので、22日を空けることは高校側にとって大変ありがたい。
委員長	発言感謝する。志小田委員改めて発言願う。
志小田委員	先ほど申し上げた通り、修正案2でお願いする。
委員長	発言感謝する。新井委員発言願う。
新井委員	事務局から3つの視点を説明され、その中で何を重視するかで各案が出ていることから、私としては、生徒の受験機会を確実に保障してあげたいと考えると、諮問案でいいと思う。
委員長	発言感謝する。本木委員改めて発言願う。
本木委員	先ほどの通り、諮問案がいいと思う。
委員長	発言感謝する。高橋委員発言願う。
高橋（千）委員	すごく難しい問題だと思いながら資料を見ていた。子供たちにしっかりと受験を経験をさせることを考えると、諮問案だが、それ以外の第二次募集と中高の修業式の重複や、高校の入試事務等、いろいろ考えると、どれがいいか本当に悩んでいる。 修正案2にして、一番懸念される追試験について、先ほど高校教育課長からの説明内容を、中学校、それから生徒、保護者に対して事前に丁寧に行うという形が、折衷案になると思う。
委員長	二次募集や書類審査があることを聞くだけ心理的な和らぎがあると思う。この説

	明をした上で修正案2とのことだった。発言感謝する。 伊藤委員改めて発言願う。
伊藤委員	修正案2を推したいと思う。 合格発表があって、残念ながらという子供たちは家族で話し合うことも必要でしょう。しかし、担任の先生、学校の先生という気持ちが一番強いと思う。すると、第二次募集の出願までに、合格発表の後の金曜日、ここは学校の先生方が対応すべき日であり、ここは大事だと思う。悶々と家族で話し合う中で、子供たちは絶望的になってしまわないよう、手を差し延べる必要があると思う。
委員長	発言感謝する。坪田委員発言願う。
坪田委員	本当に悩ましい。私の中ではどちらが良いのか答えはない。実は先ほど本木委員が発言したように、追試験の意味があるのか、私も感じていた。第一次募集の日に体調が悪くて休みなので、体調回復した後に受験に向かうという万全の体制をつくるという観点では、中2日では不安はある。体調が悪い状態から直ったら万全かという、心の部分も含めてそうではないという印象を持っていた。 ただ、高橋（真）委員の発言のように、保護者の方の御意見からすると、それほど大きな問題はないのかもしれないとも思うので、そこが難しいと思う。 15日に第二次募集の出願が始まることは、確かに大事だと思う。まずは、合格発表直後、先生と相談できる日にちを確保して土日を迎えるのはとても大事だと思うので、本当に悩ましい状態である。
委員長	発言感謝する。 本当に悩ましい。どちらをとってもという意見であったと思う。 熊谷委員発言願う。
熊谷副委員長	私も明確にはどちらの案を推すところまで、判断を決めることができない。もし、修正案2を採用する場合に、高橋（千）委員からの意見のように、中2日しかないことを丁寧に説明することが必要である。その場合に、様々なケースについてたくさんの質問が出ると思う。それに対して真摯に回答できるように状況を整えておくことと、可能であればできる限り弾力的な運用ができることまでも説明できることが必要と思う。このような環境を整えた上で修正案2として、進められると考える。
委員長	発言感謝する。坪田委員発言願う。
坪田委員	先ほど説明があった3段階用意されている件だが、第二次募集に関しては、募集定員に満たない場合においてという条件があったと思う。例えば、体調が戻らず、追試験も受けられなかった受験生に対して、大規模の学校が定員を充足し、第二次募集を実施しない場合は、それが、セーフティネットになるか懸念がある。弾力的な対応は可能なのかどうか伺いたい。
高校教育課長	現在も新型コロナウイルス対応で3段階の受験機会を確保している。 第二次募集を実施しない学校はどうかとの質問だが、第二次募集とは異なる取り扱いとしている。第一次募集で合格発表した段階で定員を満たしたとしても、あくまで追試験という区分で実施することになるので、受験機会は確保する形で運用している。
坪田委員	すると、追試験までの期間が短くても、万が一、第一次募集で定員を満たしていたとしても、追試験のような扱いで、受験できるとの例外的な対応があるとする説明があれば、保護者としても問題ないのかと思う。
委員長	発言感謝する。高橋（真）委員発言願う
高橋（真）委員	中2日間で追試験をする修正案2についてだが、例えば、新型コロナに感染したのが、3月5日だとすると、定められた隔離期間があり、その期間内に追試験が実施されることになる。追試験の保障があるとのことであるが、その受験生は追試験を受けられるのかどうかを伺いたい。
高校教育課長	まだ退院あるいは待機期間が解除されていない受験生は受験できない。 追試験を受験できないので、その代わりに2段階目として第二次募集の日に追試験として受験する。言い換えれば、追々試験という段階になる。それも体調がなかなか回復せずに、第二次募集も受験できなければ、書類審査で選抜をする形で運用している。

	つまり、追試験がある。それが駄目であれば、第二次募集の日に追々試験として受験していただく。それがもし駄目であれば、書類審査で選抜との3段階で受験機会を確保している。
高橋（真）委員	定員を満たしていても、第二次募集を追々試験として受験した中学生は、合格する余地があるということによいか。
高校教育課長	その通りである。
高橋（真）委員	説明感謝する。安心した。
委員長	すると、第二次募集はあくまで第二次募集と思っていたが、追々試験のような柔軟な対応ができるのであれば、修正案2がよいと思う。その理解によいか。 確認すると、修正案2で、3月5日に新型コロナに罹患した生徒の他に、何か他の事情で体調不良や、何かアクシデントがあった受験生も受け入れ、中2日とはいえ、3月8日に追試験を受けることができる。さらに、もし追試験を受験できないとしても、第二次募集のところでもう一度試験を受けることができる。それも駄目なら書類審査となる。保障としてはそこまですれば十分であると思う。 いろいろ議論あるが、答申案は修正案2でいかがか。 （特になし） では、令和6年度入学者選抜日程は、修正案2で答申する。議論感謝する。 次に、3、答申に移るが、その前に休憩とする。
	（休憩）
委員長	再開する。答申案としては修正案2で進めているが、新型コロナウイルス感染症等の対応について、実施している制度があるので、説明願う。
高校教育課長	（前年度の新型コロナウイルス感染症対策についての説明）
委員長	説明感謝する。 新型コロナウイルスだけとするか、季節性のインフルエンザとの二重罹患も想定されるので、少し弾力的に広げるのかは議論の余地がある。インフルエンザ等にも適用できるなら、受験生にとっては、安心の材料になると思う。 ちなみに、第一次募集で高等学校が定員の人数を確保し、追試験等で定員を待つケースはあるのか。
高校長育課長	令和4年度入試では追試験で受験を終えている。第二次募集や書類審査というところまでは至らなかった。
委員長	110名については、定員に上乗せして何人か合格したということか。
高校教育課長	第一次募集は、本試験と追試験を受けた受験生をあわせて選抜し、合格発表している。そこまでは定員に上乗せではなく、定員の中で選抜である。合格発表に間に合わなかった場合は、第二次募集の日に合わせて、追々試験を受けることになる。その場合、定員を満たしているのであれば、定員に上乗せをする形で合格させることになる。
委員長	これまでは追試験まで5日ぐらい空いていたので、定員上乗せはなかったが、令和6年度の日程で説明のような仕組みになると、定員上乗せもあり得ると思う。今年度希望した110名が全員同じ高校ではないと思うので散らばることを考えると、高校としてもそれほど負担にはならないとの希望的観測も含めて、修正案2の日程で答申したい。審議感謝する。 では、答申の準備をお願いします。
事務局	（答申案配付）
委員長	では、答申文を確認した後、答申する。1つずつ確認したい。 まず、答申の鑑だがこちらでよろしいか。 （答申文の確認） （特になし） 次に、選抜方針について確認願う。資料1「審議関係資料」の2～3ページと配付された答申文を確認願う。選抜方針について、この文言でよろしいか。 （選抜方針の確認） （特になし）

	<p>選抜日程について、こちらでよろしいか。 (選抜日程の確認) (特になし) それでは問題ないようなので配付された答申案で答申する。 <答申鑑に押印> → [委員長及び教育長移動]</p>
委員長 教育長	<p>(答申鑑読み上げ) → [委員長から教育長に手渡し] (答申挨拶)</p>
委員長	<p>答申については、以上で終了する。 次に、次第の「4 報告」に移る。資料2を御覧願う。 「令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜事務日程等」について、事務局から報告願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>前期後期選抜を廃止して4回目の実施となる。制度を改めた点については、この後熊谷副委員長からある。出願希望調査もうまく機能しているし、令和5年度入試では新たに全国募集選抜を導入するというので、2つのモデル校として南三陸高校と中新田高校において、県立高等学校で初めて、県を超えて全国から受験生を募ることにチャレンジをする。 今の説明に、質問あるいは意見願う。 (特になし) 次に、専門委員会からの報告を事務局説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より概要及び専門委員会の検証状況について説明)</p>
熊谷副委員長	<p>(熊谷専門委員会委員長より中間報告)</p>
事務局	<p>(事務局より今後について説明)</p>
委員長	<p>非常に丁寧な検証及び報告感謝する。内容が多いので、検証の内容と中間報告の報告書としての在り方を2つに区切って進める。 まず、質問紙調査に関する検証内容について、質問あるいは意見願う。 全般的に良い評価であり、私もこの制度改革に関わったが、特に、13ページ以降の以前の質問紙調査と今回実施の質問紙調査の変化で、以前の質問紙調査の結果を見た時に、非常に難しい状態だと思いながら始めたことを思い出した。それが、制度として良い方向になったと感じた。皆様から、忌憚のない意見願う。 数値の押さえも、簡単ではないと思うし、自由記述も、件数等を示していただき、ボリュームあるデータをコンパクトにまとめていただいたことに感謝する。 発言願う。検証の中間報告についてでも結構である。 伊藤委員発言願う。</p>
伊藤委員	<p>報告を読ませていただいた。新しい入試制度をこのようにまとめていただけると、内容がよくわかると思う。しかしながら、入試制度の評価や自由表記等々読むと、何かを求められていると、背中を押されているような気がする。 やはり、新型コロナ感染の状況の中で、揺れ動いた期間ですが、もう新型コロナ感染も沈静化し、「新しい時代」という標語が出ています。それに合わせる形で、宮城県の入試制度も検証を続けていくことが必要になると思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。 皆様から、少し感想あるいは意見願う。 志小田委員発言願う。</p>
志小田委員	<p>前期選抜と後期選抜の二本立てだった頃の弊害というか、現場に私もいたので感じたのだが、受験回数が2回になって、回数が多いのが良いと言いつつも、受験期間も長くかつ1回目で不合格の経験もしてしまう。クラスの中に合格者とこれから受験する受験生が混在していることが指摘されていて、そのことが改善、検証の中で、好意的な評価につながっていると思う。 思うのは、特色選抜のあり様である。非常に難しいと思う。さらにもう1つは、求める生徒像。どうしても抽象的で、特に普通高校は何が違うのかというところが課題であり非常に難しい。職業高校や実業高校であれば、クリアな部分があると思うが、それ以外の部分は難しい。この点は丁寧に話し合っていく必要があると思う。</p>

委員長	<p>発言感謝する。</p> <p>合格した生徒とこれから受験する生徒が混在する問題については、報告にあった通り、国立・私立もあるので、公立だけでは改善はしない。しかし、前期選抜で不合格だった割合が16.5%であったことから推測すると、前期で合格した割合は2割前後であると思う。2割前後の生徒が混在しないという状況になったことも1つの成果であると評価できると思う。</p> <p>他に、特色のあり方、それから求める生徒像、難しい問題の指摘であったと思う。高橋（真）委員発言願う。</p>
高橋（真）委員	<p>説明にあった求める生徒像であるが、本校では、今年度より探究科が新設され生徒が目的意識を持ち、大変意欲的に授業に臨んでいる。先生方もよく授業研究されて、ICTを使った非常に素晴らしい授業を展開している。</p> <p>今現在取り組んでいる学びが、社会に求められる人間を育てていくプロセスになっているのか。今後を楽しみにしている。</p> <p>資料を見て気になったところは、まず中高の先生方の業務量の多さである。自由記述を見ると先生方の悲痛な叫びのようなものを感じる。</p> <p>改善法として1クラスあたりの少人数化が良いと考える。生徒みんなに目が届いて、習熟度が増し、先生方の業務量の低減にも結び付くのではないか。</p> <p>もう1点は、20ページのマークシートの導入についてである。前回佐々木委員からマークシートの話があったと思うが、記述式問題は採点が非常に大変である。場合によっては選択肢問題を多くするなど、先生方の負担をできる限り減らして、生徒一人ひとりに向き合えるような環境を整えて欲しい。</p> <p>先生方は非常に高い知識とノウハウを持って一生懸命指導してくださっているので、是非今後とも未来ある子供たちを大切に育てていただきたいと思う。</p>
委員長	<p>複数の指摘を感謝する。</p> <p>記述式は採点のぶれもあり、採点基準を統一する難しさがある。マークシートも有効な方法だと思う。これからはペーパーテストではなく、コンピュータテスト等のCBTも出てきているので、今後また検討が必要である。</p> <p>また、探究学習ということがあるように、高校でも特色化が近年加速している。特色のあり方、それから求める生徒像と難しいところもあるが、一定程度評価されていることは、それが中高の両方で、特色化が進んできている証拠であると思う。浅野委員発言願う。</p>
浅野委員	<p>マークシート方式の導入については、課題もあるが、なるべく早く導入願う。生徒と先生方の時間の確保に加え、先生方は非常に煩雑な事務作業に今追われていて、本来の先生方の仕事、教員を志した先生方の仕事が、本当にできているのか心配している。マークシート方式を導入することで少しでも軽減になるのではと思う。</p> <p>また22ページの自由記述の保護者の項目を見ると、保護者も入試制度についてまだ理解が得られていないことがうかがえるので、今後丁寧な説明願うと保護者としてはありがたいと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。</p> <p>複雑な制度でもあるので、丁寧な説明は欠かせないと思う。佐々木委員発言願う。</p>
佐々木委員	<p>各高校によってそれぞれ抱えている課題はたくさんあると思うので、この資料を公開できるなら、校長協会に持ち帰り共有したいと思う。</p> <p>実は高校だけではなく、いろいろな社会情勢が絡んできている。例えば、今意見にあった働き方改革が言われているときに、本当に入試の採点が3日間で、それも残業なしですべて終わるのかどうか等、細かいところまで検討すべき話と考える。</p> <p>また、普通科は特色づくりに関しては、全国的な課題として取り上げられていて、普通科での特色づくりが求められているが、前回も発言したが、普通科の特色づくりを宮城県とすればどういう方向性で持っていくのかという指針が必要になると考える。</p>
委員長	<p>発言感謝する。勅使瓦委員発言願う。</p>
勅使瓦委員	<p>前期選抜、後期選抜があったときよりは、現在の入試制度の方が、業務量が高校側</p>

	<p>としては軽減されたと思う。</p> <p>ただし、入試業務は非常に大切な慎重を期す作業なので、今後も丁寧に見ていきたいと思うし、課題があるところは継続して考えていかなければならないと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。徳能委員発言願う。</p>
徳能委員	<p>私も現場で入試の業務を行っている時に、実は共通選抜と特色選抜の扱いが非常に難しく、さらに、その1.0倍を下回る学校においては、あまり機能していないという現実があると思う。よって、共通選抜と特色選抜の考え方は、もう少し精査する必要があると思う。</p> <p>それから、今回と直接関係ないが、入試で別室を多く準備する。現在、新型コロナ完成対応の別室、新型コロナ感染以外の対応の別室、それから配慮申請があった場合の別室等、多くの別室を準備するときに、教員の数が限られていて、入試日そのものが、休むことなく、一日中神経を使う業務が強いられているという現実があることも伝えておきたい。</p>
委員長	<p>大学入試においても別室を準備するが、結構負担が大きいことも、よく理解できた。発言感謝する。</p> <p>志小田委員は先ほど意見いただいたので、新井委員発言願う。</p>
新井委員	<p>求める生徒像や特色選抜がちょっと難しいのかと感じている。検証3のイで、「求める生徒像を明確に示したことで、将来を意識する」あるいは、「中学校生活を意識して生活する生徒が増加した」とあるが、これは生徒の質問の9番の回答からの検証と思うが、確かに以前の入試制度から比べると、数値は非常に上昇しているが、実際には66%と7割に達していないので、求める生徒像等は、わかりやすい又は伝わりやすい内容になるとさらにいいのかと感じた。</p>
委員長	<p>発言感謝する。本木委員発言願う。</p>
本木委員	<p>10ページの生徒の問3、新井委員からも意見があったが、学力検査と学習習慣との関係をどう中学校として捉えたらいいかを考えながら資料を拝見した。</p> <p>普段の授業の中での学習習慣の定着をしっかりとしていくことが、高校を選ぶ際の、主体的な選択にもつながっていくことを感じた。3年生になったから進路指導を充実させるのではなく、1年生の段階からしっかりと学習習慣、その先の高校生活、さらにその先の進路というものを見据えた指導をしていく必要があると改めて感じる事ができた。</p>
委員長	<p>発言感謝する。</p> <p>学習習慣と入試制度というのは、入試制度が変化したから学習習慣が変わるとも考えづらいので、むしろ68%も肯定的にある方が個人的には驚きである。</p> <p>高橋（千）委員発言願う。</p>
高橋（千）委員	<p>専門委員として2回話し合いをさせていただいた。今日参加されていない他の委員といろいろと意見交換ができ、その場で気づくことがあった。</p> <p>検証の結果ももちろんだが、特に求める生徒像、それから選抜方法に関しては、改めて、中学校側の指導の仕方、また保護者等への説明、支援の仕方にも、改善の余地がまだあると改めて気づいた。</p> <p>また、いろいろ項目を精査していく中で、学校現場の努力だけでは解決できない、例えば少子化や地域差、地域性等、根本的な問題も深く絡んでいるので、多くの意見を聞きながら、これからも検証していく必要があると感じた。</p>
委員長	<p>発言感謝する。伊藤委員発言願う。</p>
伊藤委員	<p>中学生の高校選びは、人生を考えるととても貴重な教育場面だと思う。</p> <p>中学校の動きを見ると、中学2年生が、小グループに分かれて、高校に訪問してくる。その時の姿を見ると、本当に子供たちの吸収力はすごいと感じる。それから、人生を考えるその夢の大きさにも感動する。</p> <p>それから公立中学校が、各高校の先生方を招いて、高校の特色や高校教育について語る時間を設け、中学3年生や保護者は、待っていたという状況で、話を吸収してくれる。やはり、学校教育現場には、多様な子供たちの夢を、そして、その生き方を学ぶ場面が必要だと感じる。</p> <p>しかし、必要だが、それをやることは、教育現場の教職員の加重負担になる。で</p>

	<p>も、これからの時代を生きる子供たちには、そういう夢を持たせるようなプログラムが必要と思う。</p> <p>ということでは、特色選抜もいろいろ試行しながら、子供たちがどんな可能性の中に入っていくのかを考えさせる機会があればと思っている。</p>
委員長	<p>発言感謝する。坪田委員発言願う。</p>
坪田委員	<p>本当に一見して、制度改革がよりよい方向に向かっていることがわかる。非常によかったと思う。</p> <p>制度改革自体が非常によく、あとは運用をより良くしていくという課題を質問紙調査でいただいたと思うが、やはり求める生徒像は、生徒自身に目的意識を持たせることにおいて、非常に有意義だと思った。主体的に学習に取り組む態度はやはり目的意識次第だと思うので、非常に重要だと思うし、特色選抜に関しては、自分自身はどういうところを伸ばしていけばいいかを見つめる機会にもなると思うので、目的意識とセットで、自分自身の特色、適性や長所、苦手な部分を、見極めながら、どの学校に行けるだろうか、行きたいかということを見極める材料にもなると思うので、その特色選抜の中身がより明確に、生徒に示せるとより良い3年間を過ごせるのではないかと思った。</p> <p>さらに、先ほどマークシート方式の意見があったが、私も現場の先生方の負担ができるだけ減ればいいと、日頃から思っている。一方で、その子供の言語活動をどのように充実させていくかも非常に大きな課題だと思う。記述式で、答えさせるには、表現力を鍛える必要がある。それを入試の一発で測るのか、3年間の活動の中で、どれだけ伸びたかを評価したものを、評価対象として採用するのか等をいろいろ合わせて、評価できるようなシステムあるいは構造になったらいいと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。熊谷委員発言願う。</p>
熊谷副委員長	<p>非常に貴重な意見感謝する。来年度、最終報告をつくる際に、参考になる意見ばかりだったので、これからもよろしく願う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。</p> <p>今後現行入試制度に関わる検証については、専門委員会でさらに詳細に検証し、検証結果を来年度の第1回審議会で報告願う。報告については以上で終了する。</p> <p>続いて、「5、その他」に移る。</p> <p>事務局、何か議題はあるか。</p>
事務局	<p>特になし。</p>
委員長	<p>その他、委員の皆様から何かないか。</p> <p>(特になし)</p> <p>では、以上で本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>(閉会)</p>